

令和3年度

# 学校経営方針

国立市立国立第一中学校  
校長 山上 真哉

## 1. はじめに

国立第一中学校は本年度創立75年目を迎える。多くの卒業生がこの学び舎を後にし、我が母校を誇りとし活躍している。この伝統ある国中を守り、更に発展させ信頼をいただけるように「チーム国中」を今年度もスローガンとし、保護者、地域、教職員が同じ方向を向いて共に寄り添いながら躍進して進化し続ける国中でありたい。そのために、誰もが気軽に安心して足を運ぶことが出来るよう、様々な機関と密に連携を取りながら国中に栄養を注いでいただける環境をつくることが大切である。

そのために私たち教職員は全員が一糸乱れることなく、「チーム国中」を強く意識し、保護者、地域の皆様と共に開かれた国中、そして地域に愛され、地域の誇りとなる国中を目指していく決意である。

## 2. 教育目標

「たくましい、心豊かな人間をめざして」次の目標を設定する。

1. 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。
2. 豊かな創造性を養おう。
3. 思いやる心をもとう。
4. 健康な心身をつくろう。

## 3. 基本方針

- (1) 日本国憲法・教育基本法の精神に則り、関係法令等に準拠しながら常に教育目標の実現に向けた教育を行っていく。
- (2) 生徒の実態から出発し、常に本校の教育課題の改善を図り、進化し続ける教育を展開するとともに、生徒一人一人が自己実現を図り、夢や希望、生きがいのもてる学校を創造する。
- (3) 学校は組織全体である。教職員一人一人がその力を発揮し、共通実践を図りながら共働する学校を目指すとともに、教職員相互の意志疎通に努め、組織が有機的に働くようにする。
- (4) よき校風や伝統を継承しながら、保護者・地域社会との相互理解を深め、信頼に応える、開かれた学校創りを推進し、共同による共育の実現を目指す。

## 4. 教育目標の実現に向けた令和3年度の重点 ～チーム国中～

**共に楽しく学び合える環境の中で、自ら考え、力強く行動できる国中生**

## 5. 学校経営の重点（      は、最重点課題）

- (1) 確かな学力の向上
  - ① 特別支援教育の視点に立った授業実践に取り組むとともに、一中の「交流及び共同学習」を積極的に推進する。
  - ② 生徒の学びの質を高めるため、指導（計画）の改善や個に応じた指導の工夫等授業力の向上を図りながら、基礎学力の定着を図り、社会の変化に対応した学力及び学習習慣を身に付ける。更に、主体的で対話的な深い学びのある授業を実践し、将来に役立つ「生きる力」を身に付ける。
  - ③ 各教科、総合的な学習の時間等の学習を通して、SDGsの視点に立った教育活動を推進

し生徒主体の授業展開を工夫し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるとともに、「学びに向かう力、人間性等」の視点に立ち支援する授業実践を行う。

(2) 心の教育の充実

- ①規範意識の醸成と公共心の涵養、基本的生活習慣の確立を図る。
- ②道徳教育・人権教育の充実、ボランティア活動の推進を通して、自尊感情や自己有用感の醸成とともに他者を大切にする「温かい心」を育てる教育の充実を図る。また、地域行事への積極的な参加を推進し、地域の人々との交流を通して、「地域（国立市）に対する愛着と誇り」を育て、生徒の心の教育に努める。
- ③いじめのない学校、不登校生徒の減少を目指すとともに、「生命尊重」の精神を涵養し、命の教育の充実を図る。LGBTの教員研修を充実させ、学校経営に活かす。
- ④SDGsの視点に立った教育活動を実践させることで、生徒に「持続可能な開発目標」を意識させ、国立から世界へ視野を広げられるようにする。
- ⑤情報モラル教育を推進し、有害情報から生徒を守るとともに、「SNS一中ルール」を生徒、保護者に定着させ、適切な活用方法について生徒、保護者が一体となって考える取組を行う。
- ⑥学校生活適応のためのカウンセリング・教育相談活動を重視し、スクールカウンセラーや養護教諭、学級担任、ときにはスクール・ソーシャル・ワーカーの教育相談活動を取り入れ、心を耕す支援を重視する。

(3) 特別活動の充実

- ①生徒一人一人が大切にされる温かい学級経営、学年経営の充実を図り、生徒との信頼関係を構築し深める。
- ②限られた時間・準備の中で、生徒が主体となって活動する学校行事を創造する。
- ③学校教育の一環としての部活動等を通して、自主的・自律的運営力の育成を図る。
- ④家庭や地域社会との連携の中で、多様な体験活動を通して、生徒が社会の一員であることの自覚を深め、社会の中で共に生きていこうとする「豊かな人間性」を育む。

(4) 生徒の安全の確保と安全教育、防災教育・対策の充実

- ①防災教育の充実を図り、自他の命を自ら守る生徒を育成する。
- ②セーフティー教室の充実を図る。
- ③全職員が危機意識の向上に努める。
- ④施設点検の計画実施と、来訪者の対応など安全確保の意識を高める。

(5) 小・中連携、中・高連携、保護者・地域連携の充実

- ①小学校との連携を推進し、円滑な小学校から中学校への接続を図り、小6の中学校訪問、授業交流や生徒のボランティア活動を推進する。
- ②国立高校との連携を推進し、小中高合同防災訓練、音楽コンサート、学習教室実施を通して見本となる高校生の姿に学ぶ機会を設定する。
- ③職場体験、地域行事の参加等を通し、また学校ホームページ等情報を積極的に発信し、学校と地域との連携を深める。
- ④PTAとの連携を図り、学年職員・学年PTAとの交流を推進する。

(6) 教員の資質向上

- ①学校経営方針に基づいた職務上の目標設定（自己申告に反映）による、学校経営参画の向上
- ②「子どものために必要なこと」を第一義においた組織的・効率的な学校運営～「報告・連絡・相談」、「共通理解」
- ③若手教員の育成、若手教員研修の充実～社会人、公務員、教師としての基本習得
- ④サービスの厳正～教育公務員としての自覚と誇りを高める（人権意識の高揚、服務規律の厳守、研修の充実、学校情報の管理徹底等）
- ⑤教職員の心身の健康　働き方改革を意識し、教職員が生きがいを実感しながら働くことができる職場を目指し、改革に取り組む。